



## 爽やかな初夏に衣替え



日本には四季があり、天気や気候が変化するため、身に着ける衣類などをその季節に合わせて替える作業を行ってきました。特に夏と冬に行われるこの作業が「衣替え」と呼ばれています。

多くの地域では6月1日、10月1日になると幼稚園、保育園、学校や企業の制服が一斉に衣替えされるため、「季節が変わるんだなあ」と感じます。

「衣替え」の歴史は平安時代までさかのぼり、もともとは中国の習慣だったものが日本に伝わり、それが宮中行事として定着したと言われています。

当時は「更衣（こうい）」と呼ばれ、旧暦4月1日に冬装束から夏装束へ、10月1日に夏装束から冬装束へ着物を替えていました。しかし、「更衣（こうい）」という言葉は、このように季節によって着るものを替えるという意味の他に、天皇の着替えを行う女官の役職名としても使われていたため、混乱を避けるために「衣替え」という呼び方に变化したと言われています。

江戸時代になると着物の種類が増えたため、気候に合わせて年に4回衣替えをするよう武家社会で定められました。これが庶民にも広がっていきました。

明治時代に洋服が取り入れられると、役人や軍人などが制服を着るようになり、暦も新暦に変わったため、夏服と冬服を年に2回替えるようになり、学校や家庭にも衣替えの意識が浸透し、現在に至っているようです。

まだ寒い日もありますが、白いYシャツ、ブラウスの太中生の姿がとても爽やかです。

でも、マスクが暑さを倍増させ、苦しいです。

# 都合により 記事を割愛 いたします

## おめでとう ~太中生の活躍~

第43回協和中招待男子ソフトテニス大会 (R3 5/29)  
優勝 男子ソフトテニス部

この勢いで  
総体の優勝  
を目指します

